

安全データシート  
ティッシュマーキングダイ スパチュラ 赤

作成日:2019年3月1日

改訂日:2020年10月1日

1. 製品及び会社情報

製品名	ティッシュマーキングダイ スパチュラ 赤
製品コード	302-700-4
会社名	株式会社ファルマ
住所	東京都渋谷区大山町 36-7
電話番号	03-6407-2570
FAX番号	03-3465-0300
電子メールアドレス	tokyo@falma.co.jp
緊急連絡先	080-8878-0242
推奨用途及び使用上の制限	試験研究用:病理組織用マーキング剤(赤色)

2. 危険有害性の要約(製品の情報が無い場合、成分のデータから区分を推定した)

GHS 分類

健康に対する有害性	皮膚腐食性/刺激性	区分 2
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 1
	皮膚感作性	区分 1
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 2(中枢神経系、呼吸器、肝臓)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分 2(中枢神経系)

上記以外の項目は、分類対象外、分類できない又は区分外

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

皮膚刺激  
重篤な眼の損傷  
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
中枢神経系、呼吸器、肝臓の障害のおそれ  
長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系の障害のおそれ

注意書き

安全対策

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
取扱い後は手などをよく洗うこと。  
蒸気を吸入しないこと。  
汚染された作業衣は、作業場から出さないこと。  
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置	<p>使用前に取扱説明書を入手すること。</p> <p>すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。</p> <p>皮膚に付着した場合、水で洗うこと。</p> <p>汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。</p> <p>皮膚刺激又は発疹が生じた場合、医師の診察、手当を受けること。</p> <p>眼に入った場合、水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。</p> <p>眼の刺激が続く場合、医師の診察、手当を受けること。</p> <p>直ちに医師に連絡すること。</p> <p>ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。</p> <p>飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。</p> <p>気分が悪い時は、医師の診察、手当を受けること。</p>
保管 廃棄	<p>容器を密閉し、室温で施錠して保管すること。</p> <p>関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。</p>

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別  
成分及び濃度

混合物

成分	濃度 (%)	CAS 番号	官報公示整理番号 (化審法/安衛法)
①2-アミノエタノール	<2	141-43-5	(2)-301
②ジメチルアミノエタノール	<2	108-01-0	(2)-353

### 4. 応急措置

吸入した場合	<p>空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。</p> <p>気分が悪いときは、医師の診察、手当を受けること。</p>
皮膚に付着した場合	<p>水で洗うこと。</p> <p>汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。</p> <p>皮膚刺激又は発疹が生じた場合、医師の診察、手当を受けること。</p>
眼に入った場合	<p>水で数分間、注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。</p> <p>直ちに医師に連絡すること。</p>
飲み込んだ場合	<p>速やかに口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。</p> <p>気分が悪いときは、医師の診察、手当を受けること。</p>

### 5. 火災時の措置

消火剤	粉末、水、二酸化炭素	
特有の危険有害性	火災時に刺激性又は有害なガスが発生するおそれがある。	
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。	
消火を行う者の保護	消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。	
<b>6. 漏出時の措置</b>		
人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	作業には必ず保護具(手袋・眼鏡・マスク等)を着用する。必要に応じた換気を確保する。	
環境に対する注意事項	漏出物を河川や下水に直接流してはならない。	
封じ込め、浄化の方法及び機材	不燃材料等で吸収し、密閉できる空容器に回収する。	
<b>7. 取扱い及び保管上の注意</b>		
<b>取扱い</b>		
技術的対策	取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。	
安全取扱注意事項	保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。	
衛生対策	取扱い後は手などをよく洗うこと。	
<b>保管</b>		
安全な保管条件	容器を密閉し、室温で施錠して保管すること。	
<b>8. ばく露防止及び保護措置</b>		
管理濃度	① 未設定	② 未設定
許容濃度		
日本産業衛生学会(2015年版)	3 ppm (7.5 mg/m <sup>3</sup> )	未設定
ACGIH(2015年版)	TLV-TWA 3 ppm	未設定
	TLV-STEL 6 ppm	
設備対策	取扱場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置すること。 局所排気装置を使用すること。	
<b>保護具</b>		
呼吸用保護具	必要に応じ、有機ガス及び蒸気用フィルター付きマスクなどの呼吸用保護具を着用すること。	
手の保護具	保護手袋を着用すること。	
眼の保護具	保護眼鏡、保護面を着用すること。	
皮膚及び身体の保護具	必要に応じ、保護衣を着用すること。	
<b>9. 物理的及び化学的性質</b>		
<b>物理的状态</b>		
形状	粘稠性液体	
色	赤色	
臭い	微臭	

pH	データなし
融点・凝固点	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	データなし
爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度(空気= 1)	データなし
比重(相対密度)	1.02
溶解度	水に溶解
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	安定
化学的安定性	通常の条件下で安定。
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	なし
混触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	なし

## 11. 有害性情報(製品の情報が無い場合、成分のデータから区分を推定した)

急性毒性	製品の濃度より区分外。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	①ウサギの皮膚に原液を 1 分間又は 5 分間適用後洗浄した試験において、適用 1 日後に皮膚に出血と適用時間に依存した発赤、壊死がみられ、8 日以後は、鱗屑の形成がみられた(NITE 初期リスク評価書(2008))。また、別のウサギの皮膚に原液を適用した 2 試験及びウサギの耳介に適用した 1 試験においていずれも適用部位に壊死が認められた(NITE 初期リスク評価書(2008))。また、ヒトのボランティアに 1.5 時間半閉塞経皮適用した試験で、発赤、浮腫が認められたとの報告がある(NITE 初期リスク評価書(2008))ことから区分 1A。 ②ウサギを用いた GLP 試験で腐食性である(IUCLID, 2000)ことから区分 1。 製品の濃度より区分 2。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	①ウサギを用いた眼刺激性試験において、原液投与により瞬膜から結膜、眼瞼の縁にかけての重度の化学火傷や角膜混濁、重度の浮腫が認められ、8 日後に回復しなかった(NITE 初期リスク評価書(2008))。また、別のウサギを用いた 2 件の眼刺激性試験においても重度の刺激性が認められている(NITE 初期リスク評価書(2008))ことから区分 1。

<p>呼吸器感作性 皮膚感作性</p>	<p>②ウサギを用いた試験で強度の刺激性があり(IUCLID, 2000)、皮膚腐食性もあることから区分 1。 製品の濃度より区分 1。 データ不足のため分類できない。 ①モルモットを用いた皮膚感作性試験において、中程度の感作(4/5 匹)がみられたとの報告がある(NITE 初期リスク評価書(2008))。また、疫学情報では本物質を含む水溶性オイルを使用している施盤作業員に対するパッチテストで強い陽性結果がみられた(NITE 初期リスク評価書(2008))。また、金属用腐食防止剤として使われている本物質の蒸気に 1-3 年間ばく露された 104 人の作業員(男性 64 人、女性 40 人)に、アレルギー性皮膚疾患、湿疹が認められたとの報告がある(NITE 初期リスク評価書(2008))ことから区分 1。 ②マウス局所リンパ節試験でスコアが 3 以上で陽性(IUCLID 2000)であることから区分 1。</p>
<p>生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性 特定標的臓器毒性(単回ばく露)</p>	<p>製品の濃度より区分 1。 データ不足のため分類できない。 データ不足のため分類できない。 データ不足のため分類できない。 ①ヒトにおいては、吸入ばく露で、咳、頭痛、息切れ、咽頭痛、嘔吐、脱力感、眩暈、上腕のしびれ、胸の痛み、1 mg/m<sup>3</sup>以上の吸入ばく露で上部呼吸器の炎症、慢性の気管支炎、急性肝障害から慢性肝炎の報告がある(NITE 初期リスク評価書(2008))、環境省リスク評価第 9 巻(2011)、DEFGOT vol.12(1999))、また、経口摂取では腹痛、灼熱感、ショック・虚脱、中枢神経系に影響を与え、意識低下を引き起こす(環境省リスク評価第 9 巻(2011))。実験動物では、経口経路で、無気力、運動減少、よろめき歩行、間代性及び強直性痙攣、呼吸困難、腹臥位、運動神経麻痺、過度の緊張、鎮静、筋の震え、遅発性死亡の報告があり、剖検結果では肝実質細胞壊死の報告がある(NITE 初期リスク評価書(2008)、BUA 202(1996))。これらの症状はガイダンス値の区分 2 又は 3 に相当する範囲でみられた。さらに、本物質は呼吸器刺激性物質であり、神経毒性物質であるとの記載(PATTY (6th, 2012))があることより、実験動物において症状はガイダンス値の区分 2 又は 3 に相当する範囲でみられているが、ヒトへの影響を重視し、区分 1(中枢神経系、呼吸器、肝臓)、区分 3(麻酔作用)。 ②データなし。 製品の濃度より区分 2(中枢神経系、呼吸器、肝臓)。</p>

特定標的臓器毒性(反復ばく露)	<p>①ヒトでは分類に利用可能なデータはなかった。吸入経路ではラット、モルモット、イヌに本物質蒸気を濃度及びばく露期間を可変させ、いずれも 24 時間/日吸入ばく露した試験(NITE 初期リスク評価書(2008)、ACGIH(7th, 2001)、DFGOT(vol. 12, 1999)、環境省環境リスク評価第 9 巻(2011)、PATTY(6th, 2012)、記述内容は原著(Weeks, M. H. et al.(1960))で確認した)において、ラット及びイヌでは 12-15 mg/m<sup>3</sup>を 40 日間、又は 60 日間ばく露(ガイダンス値換算: 0.021-0.04 mg/L/6hr)で活動性低下が、ラット、モルモット、イヌに 29-64 mg/m<sup>3</sup>を 90 日間ばく露(ガイダンス値換算: 0.12-0.26 mg/L/6hr)で嗜眠がみられ、中枢神経系への影響が区分 1 の範囲で認められた。</p> <p>②ラット 13 週間吸入試験で呼吸器に病理組織学的変化がみられている(IUCLID, 2000)ことから区分 2(呼吸器)。製品の濃度より区分 2(中枢神経系)。</p>
吸引性呼吸器有害性	データ不足のため分類できない。
12. 環境影響情報	
生態毒性	
水生環境有害性(急性)	①②有害性が認められるが、ごく少量であることから区分外。
水生環境有害性(長期間)	①有害性が認められるが、ごく少量であることから区分外。
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装	容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意	
国際規制	非該当
国内規制	非該当
注意事項	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 重量物を上積みしない。
15. 適用法令	
労働安全衛生法	<p>①名称等を表示すべき危険有害物</p> <p>①名称等を通知すべき危険有害物</p> <p>①危険性又は有害性等を調査すべき物</p>

上記内容は当社で入手可能な情報に基づいて作成していますが、記載データや評価に関しては、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。未知の有害性があり得ますので、取扱には十分ご注意ください。